

公共交通調査特別委員会行政視察報告書

令和7年12月26日

つくば市議会議長 黒田 健祐 様

公共交通調査特別委員長 小久保 貴史
(公印省略)

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、報告します。

記

1 視察期間

令和7年11月6日(木)から令和7年11月7日(金)まで

2 視察先及び視察事項

- (1) 一般財団法人 塩尻市振興公社
自動運転の取組について
- (2) 群馬県伊勢崎市
タクシー活用事業について

3 視察目的

本委員会所管に係る上記事項について調査研究し、本市の公共交通の発展に寄与する。

4 参加者 計11名(委員9名、議会局(随員)2名)

委員長 小久保 貴史

副委員長 渡辺 峰子

委員 川久保 皆実、あさの えくこ、山中 真弓、木村 清隆、
木村 修寿、塚本 洋二、塩田 尚

議会局 大坪 哲也、川上 由利子

5 研修内容

(1) 一般財団法人 塩尻市振興公社

【11月6日（木）説明：一般財団法人 塩尻市振興公社】

「自動運転の取組について」

塩尻市では、1999年に民間路線バスが撤退して以降、定時定路線の市営コミュニティバスを運行してきたが、年々コストが増大する一方、利便性が低いという問題があった。そのため、農山村地域と市街地をつなぐ市営コミュニティバスは残しつつ、市街地ではオンデマンドバスに置き換えるなど、対応を進めてきた。自動運転については、まずは市街地でオンデマンドバスと並行して導入しつつ、将来的には定時定路線の部分に実装することを目指している。

自動運転の取組としては、2025年1月にレベル4での走行を実施した。歩車が混在する一般道を、運転席が無人の状態です速25kmで運行している。運行範囲は塩尻駅から塩尻市役所までであり、往路のみレベル4で運行し、復路はレベル2で運行を行った。取組を始めた背景には、公社でアウトソーシングで受けた業務を時短就労希望者に分配するKADOという事業があり、そこで請け負っていた三次元地図データ作成業務をきっかけとし、自動運転の取組につながった。KADOは自動運転における地図製作を行っているほか、走行メモ作成やアンケート収集などの運行補助、全国各地の実証で作成された走行メモのデジタル変換やデータ収集、分析などを担っており、地域デジタル人材として大きな役割を果たしている。

また、学校での試乗会開催や、企業と連携したキャンペーンを行うなど、自動運転による地域インパクトも重視している。

課題として、現在レベル2で運行している経路においてレベル4運行を実施していく場合に歩道がない道や狭い道などで対向車が近づいてきた際に停止してしまうことや、右折の場合に交差点に取り残されてしまい手動介入せざるを得ないことが予測されている。また、今後コストダウンしていくことが課題である。



(2) 群馬県伊勢崎市

【11月7日（金）説明：都市計画部交通政策課】

タクシー活用事業について

伊勢崎市では、令和3年度から令和4年度にかけて近隣市町の事業調査や、コミュニティバス利用者へのアンケートを行い、デマンド交通については、民間タクシーを活用し、タクシー利用距離に応じた料金形態とする事業草案を作成した。令和5年度には交通事業者や学識経験者等の専門家の意見を聴取し取り入れた事業案を作成し、伊勢崎市地域公共交通会議で検討を行った。「利用者が利用しやすい」「民業の圧迫にならない」「コミュニティバスとの連携」を基本的な考えとし、令和6年11月にタクシー利用料金を一部助成するタクシー活用事業を開始した。

停留所は設けず、自宅から目的地までを運行するドア・ツー・ドア方式を採用しており、伊勢崎市が乗車地または降車地の運行に限られる。事業対象者は伊勢崎市に住民登録がある①満75歳以上の方②満65歳以上満75歳未満で運転免許証のない方③障害者手帳を持っている方（一部を除く。）であり、土日祝日含め午前7時から午後7時まで利用可能である。利用回数は年間72回で、群馬県タクシー協会伊勢崎地区に所属する常時運行可能な全車両で利用できる。

助成割合は利用金額によって異なり、600円以上3,000円未満で半額、3,000円以上3,500円未満で4割、3,500円以上4,000円未満で3割、4,000円以上4,500円未満で2割、4,500円以上で1割（上限1,500円）である。サービス利用登録時にマイナンバーカードに利用情報を登録し、乗客は乗車の際にマイナンバーカードを車内のスマートフォンにかざし、到着後に割り引かれた料金を現金で支払う。マイナンバーカードのほか、紙の利用券でも利用することができる。

利用者数については、年々増加している状況ではあるが、制度の理解を進めること、マイナンバーカードの更新後に再登録が必要であり、周知を進めることが課題である。



【行政視察所感欄】

この度、公共交通調査特別委員会では、自動運転の取組及びタクシー活用事業の取組について視察を行った。

自動運転の取組については、塩尻市において現在レベル4で運行している自動運転バスについて視察した。人口減少や高齢化が進む中、山間地域における公共交通の将来像を具体的に示す先進的な取組であると感じた。

特に運転士不足という全国共通の課題に対し、社会実装を段階的に導入し、進めていることが高く評価できる。今後の定時定路線への導入に期待する。

導入経過は、市営コミュニティバス運営による課題から市内における公共交通の在り方について検討を重ね、オンデマンドバスでの運行と並行して取り組み、三次元地図データ作成業務をきっかけに自動運転の取組がスタートした。なお、国の10/10の補助事業を受けての取組である。

自動運転における画像をデジタル変換したものをモニターで拝見した。歩道がない道や狭い道などで対向車が近づいてきた際に停止してしまうことや、右折の場合に交差点に取り残されてしまい手動介入せざるを得ない課題を残しているが、歩行者が混在するエリアにおいて察知して車両を停止する技術の進歩に感銘を受けた。

今後、つくば市で予定されている実証実験も同一車両であり、実際に車両も見学させていただいた。今回の視察で得られた知見を踏まえ、国の支援制度の動向を注視しつつ、既存公共交通との役割分担を整理しながら、将来的な選択肢の一つとして自動運転の可能性を検討していく必要があると考える。

タクシー活用事業の取組については、制度や運用状況、効果と課題について調査を行った。「利用者が利用しやすい」「民業の圧迫にならない」「コミュニティバスとの連携」を基本的な考えとし、タクシー利用料金を一部助成するタクシー活用事業を行っていた。

停留所は設けず、自宅から目的地までのドア・ツー・ドア方式を採用し、伊勢崎市が乗車地または降車地の運行に限られる。利用回数は年間72回で、群馬県タクシー協会と連携し、運行可能な全車両で利用できるタクシー券を活用していた。利用者数については年々増加している状況ではあるが、制度の理解を広めることや、マイナンバーカード所持と活用が今後の課題であると感じる。分かりやすい制度ではあるが、更なる周知を進めることに期待する。

今回の行政視察で学び得たことを参考に、本市の行政運営の発展に取り組んでいきたい。

公共交通調査特別委員会委員長 小久保 貴史